もう一つのDX

JJ1SXA/池

「DX」とは英語で遠距離を意味する「Distant」を略したもので、日本においては主にアマチュア無線における海外交信を示す用語だ、転じて単に外国のことを指す場合もある。

英語で言う「DXing」には遠方のラジオ放送を受信する BCL や同一国内でも距離の関係で通常は交信することが難しい地域との交信などの意味も含まれるが、日本では一般的では無い、DX を専門とするアマチュア無線家は DX'er と呼ばれる。

DX'er は、DXCC（DX Century Club）を目標に DX を追いかけ、「DXCC オナーロール…DXCC Honer Roll」を狙い、最終的には、「Top of the Honor Roll」を目標に、日々DX との交信に励んでいる、ちなみに、「DXCC Honer Roll」は、現存するエンティティー（現時点 2020 年 10 月で 339）のうち、未交信（未コンファーム）が残り 9 以下になった時点で申請できる、更に、現存する全エンティティーをコンファームすると「Top of the Honor Roll」が申請でき、DXCC トップの称号が得られる、まあ、こんなところが、HAM の常識だと思っているが、最近は、「DX」には別の大きな意味がある。

今、「DX」と言えば、デジタルトランスフォーメーション（Digital transformation）の事で、「デジタルによる変革」を意味し、IT の進化に伴って新たなサービスやビジネスモデルを展開することでコストを削減し、働き方改革や社会そのものの変革につなげる施策を総称したものとのことで、デジタル変革への国家的な取り組みとして、最近話題になっているようだ、2018 年には経済産業省が「デジタルトランスフォーメーションに向けた研究会」を設置して課題と対策の検討を開始し、同年にはガイドラインとレポートを発表し、国家的な取り組みとして注目されています。

デジタルトランスフォーメーションを最初に提唱したのは、スウェーデンのエリック・ストルターマン氏とされています、ストルターマン氏は、目覚ましく進歩する IT が「人々の生活をあらゆる面でより豊かに変化させる」ことが、デジタルトランスフォーメーションの概念であるとしています。

デジタルトランスフォーメーションには確立された定義はなく、さまざまな組織が独自の見解を示しているのが現状のようです。

2018 年 12 月に経済産業省より発行された「DX 推進指標」とそのガイダンス」によると、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」。

また、IT 専門の調査会社である IDC Japan は、企業が外部エコシステム（顧客、市場）の破壊的な変化に対応しつつ、内部エコシステム（組織、文化、従業員）の変革を牽引しながら、第 3 のプラットフォームを利用して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを通して、ネットとリアルの両面での顧客エクスペリエンスの変革を図ることで価値を創出し、競争上の優位性を確立することを指す」とのことだが、良くわかりません。

なお、「Digital transformation」の略称が「DT」でなく「DX」であるのは、「越えて・横切って」の意味を持つ「trans-」を英語圏では一般的に「X」と略記することに準拠してるようです、DXCC Honer Roll になるのも難しいが、こちらの DX を理解するのはもっと難しい。hi